

特集 「ありがとう」に「ありがとう」

～伝えたい、笑顔広がる介護の仕事～

今、社会を支える介護従事者が、全国的に不足しています。大分県が公表した推計によると、団塊の世代が全て75歳以上となる2025年には、県内でも1600人の介護従事者が不足するとされています。高齢化社会で増大する介護需要に対して、介護人材の確保が追いついていません。市内の介護事業所でも、人材不足は深刻化しています。

介護人材不足の大きな要因の一つとして、介護の仕事に対する「負のイメージ」が挙げられます。「待遇が悪そう」「きつそう」「家庭との両立が難しそう」などの負のイメージが先行して、介護の仕事が遠ざけられてしまっているのです。しかし、本当に介護はそのようなイメージ

ジの仕事なのでしょうか。関係者は口をそろえて言います。

「笑顔が広がる介護現場の、実際の姿を知ってほしい」と。

今回の特集のテーマは、「介護の仕事と人材の確保」です。市や介護サービス事業所が行っている人材確保の取り組みや、実際に介護現場で働く人々の「生の声」を徹底取材。そこから見えてきた、介護の仕事の姿とは――。「ありがとう」の笑顔が広がる、介護の現場をご紹介します。

グループホーム「グルッポはるかぜ」（国東町来浦）の利用者さんと介護職員の國廣亜里彩さん。

國廣さんは、「利用者さんと触れ合ったり、一緒に笑ったりすることが楽しいです」と話し、利用者さんの手を握ってほほ笑みました。まるで「はるかぜ」のような優しさが辺りを包み込み、2人から笑みがこぼれます。

※写真撮影時のみマスクを外しています。

